

「山づくりへつながる、家づくり・まちづくりの実践」

飯山市役所 経済部 農林課 耕地林務係

主査
主事

まるやま かずゆき
やまもと 和幸
山本 ゆうじ
雄二

要旨

”北信濃杉”と呼ばれているスギの産地である当飯山市の森林環境の向上を図るには、スギの利用価値と可能性を探る必要があります。平成12年より飯山市に於いて取り組んでおります、地域材を使った木造公共施設建設の取り組みを中心として、山づくりから家づくり、そして住民によるまちづくりの実践について報告致します。

はじめに

「近くの山の木で家づくり」「顔の見える家づくり」等と称される山づくり・家づくり運動が近年、都市部を中心に全国的な広がりを見せております。

”北信濃杉”と呼ばれるスギの産地である当飯山市では現在、手入れがされず公益的機能低下が懸念されている山林が目立っているため、直接的な森林環境整備と併行して、地域材を使った市内木造公共施設の建設を通じて、市民が山に目を向ける施策を展開しております。

1 ご紹介いただきました、飯山市役所農林課丸山と申します。また、同じく農林課の山本とともによろしくお願いたします。本日このような場での発表の機会をいただきまして、関係の皆様感謝申し上げます。

私の方からは、飯山市において実践しました、地域の間伐材を利用した、公共木造施設建設のとりくみを中心とした報告をしたいと思います。

(1) まずは、飯山市の概要を説明いたします。

人口はH14.4.1現在で25,872人、県下17市中最も人口が少ない過疎地域です。面積は202.32km²、東西23.1km、南北25.2kmで、全国有数の豪雪地帯となっております。

一方、市内森林面積は11,876ha、その内の国有林は約2割、民有林は8割ということになります。民有林の内的人工林は2,911haで、その内のスギが占める割合は8割弱と大変高く、ここ数年「北信濃スギ」の愛称で親しまれております。

(2) 飯山市における林業施策の背景を説明いたします。

全国的に叫ばれているのと同様に、林業では生計が立てられずに、自分の山がどこにあるのかさえもわからない山林所有者が増え、森林環境の荒廃が進んでおります。

飯山市 林業施策の背景

地域森林環境の荒廃・危機

- 千曲川水源からの全市脱却
- 2001年ながの飯山国体等、大規模イベントの開催
- 「阿弥陀堂だより」をはじめとした、地域PR
- 観光・農林業を中心とした21世紀型旅産業の創出

地域森林環境整備の必要性

それとは逆行するように、千曲川水道水源からの全市脱却、2001年冬季国体をはじめとした大規模イベントの開催に伴う景観整備、あるいは、映画「阿弥陀堂だより」に代表される地域の全国発信、なべくら高原「森の家」など、21世紀型旅産業の創出等による、地域一帯の森林環境整備の必要性が問われる形となってまいりました。そこで、それまで消極的だった造林事業を、飯山市が事業主体となって取り組むこととなりました。

2(1)平成11年度から3年間、居住地森林環境整備事業を導入しました。

まずはじめに、地元説明会を行いながら、里山の手入れの呼びかけを行いました。そして、飯山市が事業主体、森林組合が施業を行いました。また、国・県の補助金に飯山市が嵩上げすることによって、所有者の負担金を5%に押さ

え、事業導入前までの年間3ha程度の森林整備が、この3年間で約420ha実施できました。この事業によって、市民の里山に対する関心も一気に高まることとなりました。

これら直接的な森林整備と時を同じくして、地域間伐材を活用した公共施設の建設事業を展開していくこととなりました。

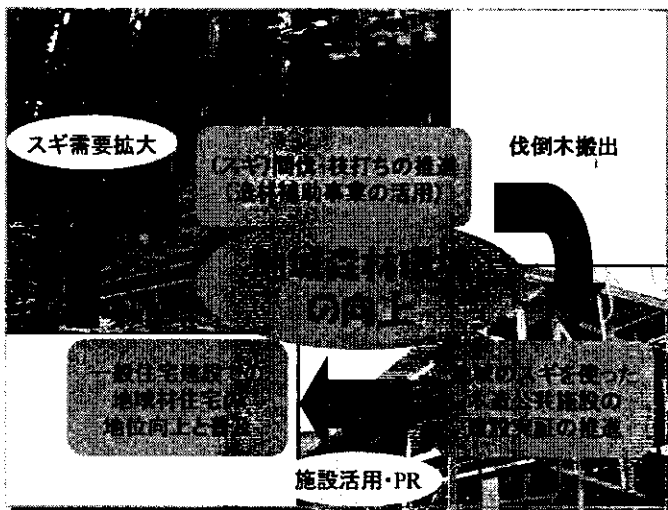
平成11年度～13年度 居住地森林環境整備事業

・事業の推進方法・

- 地元説明会を行い、手入れの遅れた里山整備の呼びかけを行い、希望者を募る。
- 公益的機能の回復を前提とし、飯山市が事業主体となり、受託者(森林組合)が施業。
- 国・県の補助金の嵩上げ分を市で負担。
- 事業費の5%を所有者負担金として徴収。

・H11～13実績・

- 人工林(スギ)の枝打ち・除間伐を中心に3年間で約420ha実施



(2) この事業の基本方針は地域森林資源の循環利用です。

間伐・枝打ちを推進することにより、地域から出された間伐材を、公共木造施設の建設に利用する実証を図ります。この施設の活用と地域材住宅のPRをすることにより、一般住宅への普及を期待します。

このサイクルを強化していくことにより、飯山市において特徴とされるスギの需要拡大、地域森林環境全体の向上につながっていくこととする展開を図ります。

平成12年より手がけました、これら、地域材公共施設を見ていただきたいと思います。

(3)平成12年、飯山市で初めて建築された「笹川ふるさと農林体験センター」。

総事業費、50,000千円。初の地域材施設ということで、各種見学会・地域活性化活動の場として有効利用されております。

(4) 翌年、平成13年の「大川地区地域交流センター」。

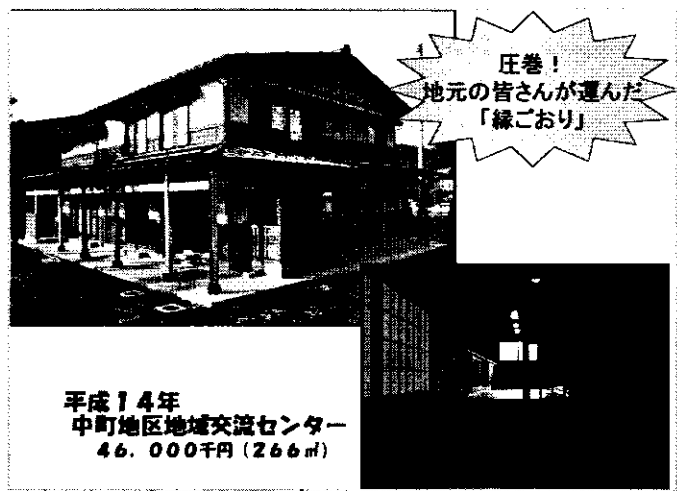
総事業費、50,000千円。地域材積率85%を達成した施設となっております。

(5) 同じく平成13年、飯山市の中心、国道117号バイパス沿いに建てられた、地域情報発信拠点施設「千曲川」。総事業費105,000千円の「道の駅・川の駅」的な役割を持つ木造施設です。年間を通して、県内外から大変多くの観光客が訪れており、地域材施設のPRに大いに役立っております。



(6) 同じく平成13年、公衆トイレを市内各所に建設いたしました。

総事業費46,000千円。五束・茶屋池・JR信濃平駅構内・同じくJR北飯山駅構内のあわせて4棟、地元の住民の手により、いつも清潔に保たれております。



(7) そして、今年度平成14年の「中町地区地域交流センター」。

総事業費、46,000千円。あとで触れますが、山から家を結びつけた、見どころ多い地域交流センターです。

(8) 同じく、平成14年「大久保地区地域交流センター」。

総事業費、65,000千円。いままですることが避けられていた、天井材・床材までも地域のスギを活用しております。

この中から、今年度完成した「中町」「大久保」の両交流センターの取り組みの一例をご紹介します。



- 3 (1) 山側に従事する者は家のことを知らない、家側に従事する者は山のことを知らないといわれます。



それでは、みんなの目でその流れを確かめようではないか、ということで間伐現場から家ができるまでを追いかけることにしました。

場所は、列状間伐でおなじみの、中野市間山。両地区それぞれの区長・建設委員長はじめ建築士・工務店・森林組合等々の立ち会いのもと、選木作業を行いました。間伐作業により切り倒した、杉の切り口に、建設委員長さんなどの手により、誤った流通を防ぐための、特注の刻印が打たれます。刻印を確認した上で、製材所への運搬も追いかけます。

- (2) 製材所での集積と刻印を確認し、皮がむかれます。乾燥機に入れる前の荒製材をかけたところで、再度切り口の刻印を確認します。地域材を有効に使うために欠かせない人工乾燥の過程を経て、所定寸法に製材されます。ここでは、含水率確認のための品質検査を行い、次のプレカット工場へと運搬されます。

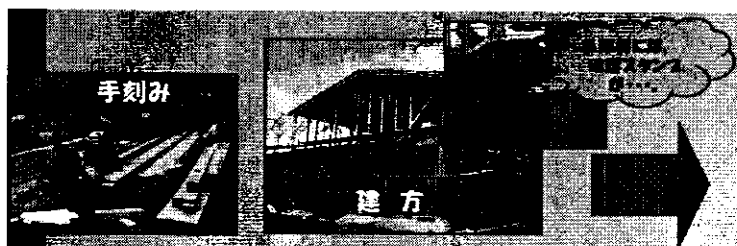
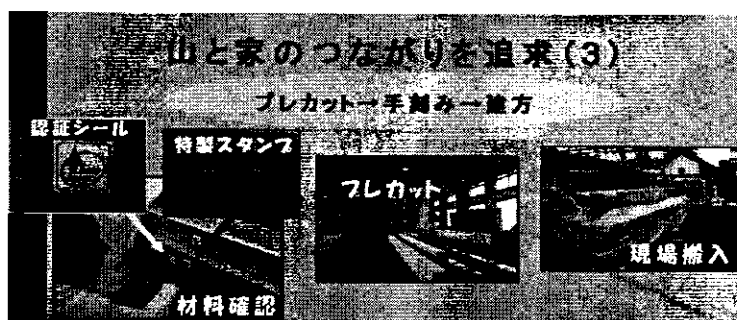


- (3) プレカット工場に集積された材木に特注スタンプを押して、その後の誤った流通を防ぎます。

また、県産材認証シールの確認も同時に行います。

プレカット工場での刻みの過程を経て、現場に運搬されます。部材によっては大工さんの手刻みも必要とされます。

建て方が始まり、その部材には各過程で印した、刻印・シール・スタンプが間違いなく残されておりました。



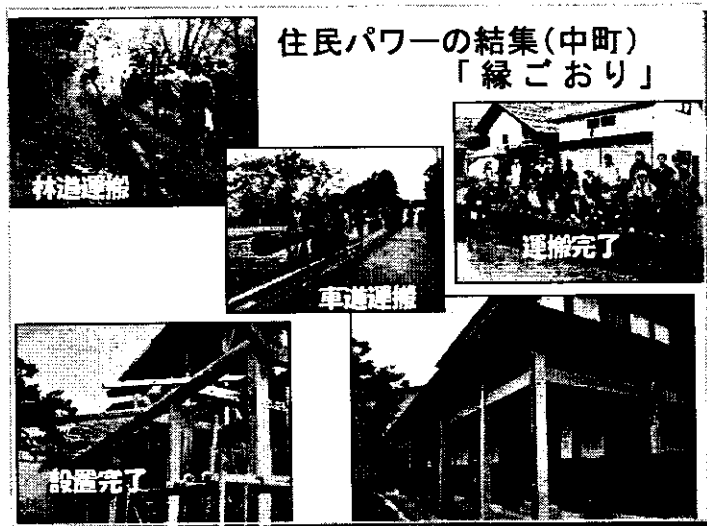
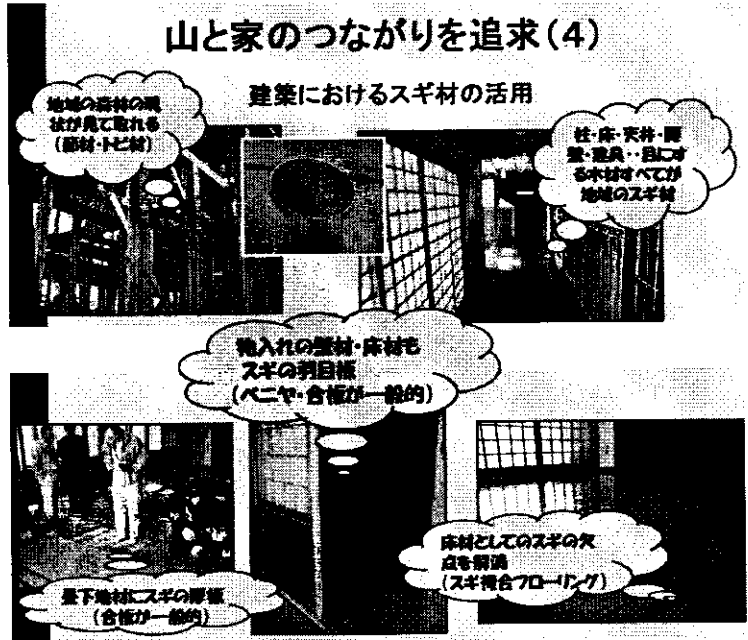
(4) 次に、ここで取り組んだスギ材の活用について、ご紹介したいと思います。

柱材をはじめ、ほとんどスギ間伐材を使いましたが、節のない柱は1本もありません。地域森林の現状が見て取れる、節だらけの柱材、傷が付きやすくとされ、避けられていた床材への活用も、暖かみのある、利用する人へのやさしい配慮が感じられます。

なお、材種名・部材名・産地名を示したプレートを設置して、地域材のPRも図っています。

また、ベニヤ板・合板の使用が一般的な、物入れの床や壁、和室の畳の下地材に至るまで、スギの無垢板を使いました。さらに、スギ床材の市場拡大の試みとして、スギ複合フローリングも取り入れました。

これら、ほんの一例ではありますが、節だらけの柱1本使うにも、建築士・請負業者・大工さん・地域住民の、既成概念をうち破るだけの、理解と協力がなければ取り入れられませんでした。



中、住民約30人の手により、林道約2km、幹線道路約3kmを1日かけて運びました。現場に到着すると「できるのが楽しみだなあ」という声があがり、住民の結束がなお一層高まりました。

(6) 10日ほど後、「竹べら」を使って皮むきを行いました。背割りをいれて、大工さんの手により刻まれ、約1ヶ月半の自然乾燥を経て、ようやく「縁ごおり」としての姿を現すこととなりました。きれいに磨かれた「縁ごおり」は、中町地区地域交流センターのシンボルとして完成いた

(5) そのような中から実現した、地域住民発案による取り組みを紹介いたします。

中町地区においては、「縁ごおり」に使う、20m強の杉丸太材をみんなで準備しようじゃないか、という声があがりました。

建築に先立つ5月。近くの里山を歩き回り、使えそうな樹齢80年余りのスギを見つけだし、住民の手により切り倒されました。

2週間後の日曜日。あいにくの雨の

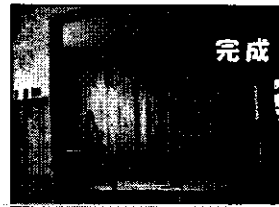
しました。

(7) 一方大久保では、羽目板張りをしたいということになりました。

場所は、2階の物入れの壁。大工さんの実演から始まり、最初は遠慮がちだった一日大工さん達でしたが、最後は建築士さんまで巻き込んで、和やかに羽目板張りを完成させました。

これら、住民の行動によって、どんなに豪華な施設を建てても味わえない、喜びと、愛着に満ちた木造施設になったのではないかと感じました。

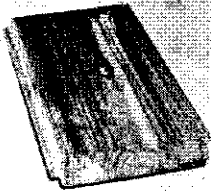
住民パワーの結集(大久保) 「内装工事体験」



4 (1) 飯山市では、平成15年も1棟の地域交流センター建設を予定しております。

平成15年のねらい

スギ厚板とは？



- 壁・天井等の部材簡略化。
- 簡略化・断熱性能による、低コスト化実証。
- 地域材利用拡大への期待。



さらなる地域材利用促進を進めるためのねらいの一つ「スギの厚板」利用について説明します。

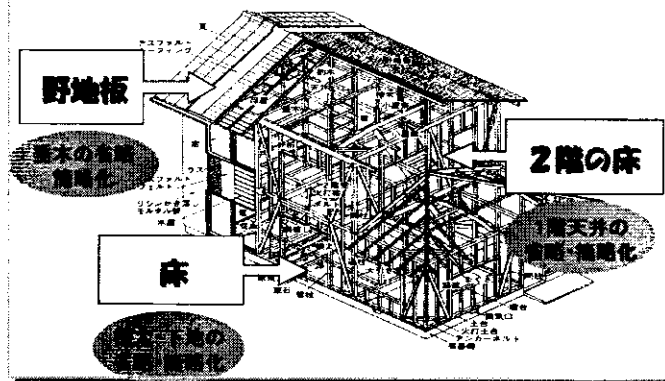
この写真は、スギの厚板のサンプルです。目標となる効果は、壁・天井等に使うことで、付随する部材を簡略化できないか、また、この部材簡略化と木材が本来持つ断熱性能により、低コスト化が図れると考えます。さらに、この厚板建築を実証できることにより、スギ材の需要量が増えることを期待しております。

(2) それでは、この厚板の利用イメージを見ていただきたいと思います。

これは、一般的な木造2階建の略図ですが、屋根の野地板に厚板を利用することで、垂木あるいは母屋の部材が簡略化できないか、また、1階床材に使うことで、根太の簡略化と、下地材の省略ができると思われます。さらに、2階の床材に使うことで、1階の天井の省略、あるいは簡略化が図れると考えております。

これらは、以前の民家建築等には当然のごとく使われていた工法でありますので、事業に携わる関係者の理解と協力を得る中で、さらに検討

スギ厚板利用イメージ



してまいりたいと考えております。

5 以上、飯山市の取り組みを紹介してまいりましたが、今後の飯山市における林業施策について、私の意見としての提案を述べたいと思います。

まず、施設利用者の声を取り入れた、継続的な建設を図っていくべきと考えます。また、その声を反映した新たな地域材利用価値を模索していければと考えます。

次に、スローライフあるいは家づくりにおけるスローハウスといわれる、健康的で、環境に配慮した、持続的な林業施策の展開を図っていくべきと思います。

さらに、直接的な森林環境整備と

して、国・県・市町村による積極的な造林補助事業の展開を、山林所有者の身になって進めていくべきと考えます。

林業施策 今後の取り組み提案

- 施設利用者の声を取り入れた、地域材公共施設の継続的な建設と新たな展開の模索。
- スローライフ・スローハウスをキーワードとした健康的で環境保全に配慮した施策の展開。
- 造林補助事業の導入による、山林所有者中心の森林環境整備の推進。

最後になりますが、私ども飯山市の地域材利用促進事業に対しまして、献身的にご指導いただきました長野県林務部の関係する皆様方に対しまして、この場をお借りして感謝申し上げます。

特に、地域の森林環境の保全についての、専門的な見地でご指導いただき、かつ先頭となって情熱的に取り組み、地域づくり・まちづくりにまで結びつけていただいた、北信地方事務所、久保田AGはじめ、長野県林業改良指導員の皆様に対しましても、深く感謝申し上げます。

飯山市としましても、今後も、地域のスギの利用価値を追求しながら、近くの里山・森林環境の改善に努力してまいりたいと思います。

おわりに

今年度実施された、「中町」「大久保」の両交流センター建設に当たっての、住民・建築士・工務店等との話し合いと活動を通して、山づくり（林業の活性化）にはそこから生まれた木を使った家づくりが必要であり、家づくりにはそこに携わる人（施主・設計士・工務店・大工・素材生産業者・山林所有者等）の連携と信頼関係、まちづくりに対する理解と情熱が大変重要であることを強く感じました。